

障害福祉サービス事業を 活用した生涯学習支援

～人生を豊かに生きるための学びと余暇活動～

NPO法人 エス・アイ・エヌ
集いの場あゆみ 所長
副理事長 草羽 俊之

『生涯学習の取組』に至るまでの経過と背景

1992年7月、青年教室「こいこいクラブ」の設立

- 学校卒業後に就労した人の「余暇活動の場」。
- 「鯉」、「恋」、中身が「濃い」、みんな「来い」
- 活動の特徴は、本人とサポーターが話し合い、当事者運営による自己決定を大切にした取組。

当初は、行事中心の活動「ハイキング」「カープ観戦」「ボウリング」「カラオケ」「一泊旅行」などの活動。

- 更には、歌やダンスの会やスポーツを楽しむ会、ワープロを使う学習会、運転免許取得に向けた学習会、料理教室など趣味から学習までの領域へと発展。
- 運営上の「財源不足」「サポーター確保の難しさ」「運営体制が維持が困難」さが背景となり、約15年余の活動で休止した。

生涯学習の前身となる取組みの一つでもあった。

『生涯学習の取組』に至るまでの経過と背景

NPO法人「エス・アイ・エヌ」の設立

(*Support Independence Network*)

2003年9月「知的障害者のための生涯学習」の構想をし、事業を効果的に進めていくために、大学との連携・協同の事業に取り組む。（他にも、視覚障害者の支援や清掃事業を主とした就労継続支援B型事業所を2カ所運営）

- 労働や生活での実務的なつまずきに対する技術・学習支援。
- 文化・教養・趣味など個人のニーズに応じた生きがい支援。
- 自分を取り巻く社会の情勢や制度・法律・防災・安全の知識の理解と障害者の権利と人権についての意識作り。
- 社会的教養と暮らしのルールや住民自治の理解などの学習や具体的な生活技術の習得。
- 「障害について」「自立について」「自分らしさ」などをテーマにした当事者同士の話し合いの場作り。

『生涯学習の取組』に至るまでの経過と背景

「NPO法人エス・アイ・エヌによる取組」

- 2004年6月～9月「3級ホームヘルパー養成研修講座」の開講

知的障害者の就労自立に向けてのキャリアアップを目標にしたヘルパー資格の取得の講座を開講し、訪問介護（ホーム・ヘルプ）サービスや配食サービスなどを対象に、知的障害者の新たな職域開拓と職場開発をめざす。

- 2004年10月～2005年3月「レッツ・オープンカレッジ | N広島国際大学」の協同事業。

NPO法人と大学との協同による知的障害者の生涯学習講座の取組。講座内容は、自分の暮らしに役立てる法律や制度などの「学びの講座」と、暮らしを豊かに楽しくする「レッツ・エンジョイ・カルチャー講座」が行われた。

「レッツ・オープンカレッジ IN広島国際大学」の取組による成果と課題

《成果と課題》

医療・福祉系の大学という利点や環境を生かし、
学生と一緒に専門的な学習を分かりやすく学んだり
、キャンパスライフを楽しむことができたりするこ
とで、日常と違う環境での刺激を楽しむことができ
た。

しかし、この取組を継続していくためには、大学のバックアップ体制や大学教員の積極的な関与が条
件になり、単発的な活動に終わった。

広島市における生涯学習支援 のアンケート調査から

日本福祉大学大学院における修士論文から
「広島市における軽度知的障害者の自立を支える生涯学習の在り方の研究」
～当事者ニーズを基にした生涯学習の内容とプログラムの検討・活用の方策について～

- 本研究を通して、広島市の軽度知的障害者の生涯学習に関する当事者アンケート調査を行った結果も後の取組の参考にした。
- 調査の結果・分析から一部抜粋

《表2》

生涯学習ニ
ーズと余暇
活動ニーズ

《生涯学習
ニーズ》

「生活の困
り事や心配
事と学習要
求」

生活の困り事と学習ニーズのアンケート

(当事者100人を対象に)

1. 18の調査項目

「教養」「資格取得」「漢字・計算」「福祉・就労制度」
「福祉サービス」「就職活動」「交通機関の利用」「社会でのマナー」「職場での人間関係」「異性との付き合い」
「人間関係」「金銭管理」「金銭の使い方」「消費者被害」
「災害」「日常生活」「食事」「健康」

2. アンケートから分かること

学習ニーズでは、50人以上の人が希望している項目は、
「日常生活」「災害」「消費者被害」「金銭の使い方」「金銭管理」「人間関係」「異性との付き合い」「職場での人間関係」「福祉サービス」「福祉・就労制度」「漢字・計算」「資格取得」の12項目であった。

生活の困り事と学習ニーズの概括的な傾向と分析

(1) 『学習の希望が無し』が50人以上の項目

「食生活」「交通機関の利用」の2項目(無しは少ない)

(2) 『困り事や心配事(以下困り事)が有り』50人以上の項目「健康」「日常生活」「災害」「消費者被害」「金銭の使い方」「金銭管理」「人間関係」「異性との付き合い」「福祉サービス」「福祉・就労制度」「漢字・計算」「資格取得」の12項目(有りが多い)

(3) 『困り事が無し』50人以上の項目

「食事」「職場での人間関係」「社会でのマナー」「交通機関の利用」「就職活動」「教養」の6項目(無し1/3)

生活の困り事と学習ニーズの概括的な傾向と分析

(4) 学習ニーズがある50人以上の項目

「日常生活」「災害」「消費者被害」「金銭の使い方」

「金銭管理」「人間関係」「異性との付き合い」「職場での人間関係」「福祉サービス」「福祉・就労制度」

「漢字・計算」「資格取得」の12項目 (学習ニーズ多い)

(5) 『学習の希望が無し』が50人以上の項目

「食生活」「交通機関の利用」の2項目 (無し少ない)

◎ 『困り事』と『学習ニーズ』で50人以上の有り12項目の内、11項目が共通であった。『困り事』と『学習ニーズ』は、ほぼ共通している。

生活の困り事と学習ニーズの概括的な傾向と分析

《解説》

家族や支援者の立場からみた「本人に知って欲しいこと」「学んで欲しいこと」は、必ずしも本人の要求と一致していない場合もある。つまり、本人の要求と家族や支援者が本人に求めることのギャップをどのように考えるかは検討が必要である。

本人の学習ニーズが低いからといって、必ずしも学習の意義が低いとは限らない。むしろ、集団の中で本人にとって生活への必要性や意味を高めると、学習意欲が出ることもある。

生活の困り事と学習ニーズの背景にあること

(1) 『困り事有り』と答えた人が**60人以上**になった項目

「健康について」「人間関係」「福祉サービスの利用」「福祉・就労制度について」の4つ

(2) 『学習ニーズ』が60人以上になった項目は「災害について」「人間関係」「福祉・就労の制度について」「資格取得について」の4つ。

《調査後の本人達の感想や思いの聞き取りから分析すると》

困り事は「災害」のように「今の困り事でなく、将来に向けて心配である。」ものから人間関係のように「友達関係の修復」「話がうまくできない」等の現在抱える悩みもある。

学習ニーズは、「今から学習して知っておきたい。準備をしておきたい。」と思っている側面が強いようである。

両者に共通している項目は「**困り事と学習ニーズ**」が**結びついた、とりわけ高いニーズ**であるとも言える。

生活の困り事と学習ニーズの背景にあること

(3) テレビ、インターネット、携帯電話などから身近な問題やニュースとして、自分の生活と結びつけた関心事（災害や障害者自立支援法等）の情報を知る機会が増えている。

例えば、グループホームでの生活や一人暮らしに向けて友人や家族・教員から情報を得て、「成年後見人の制度」「移動支援」を知りたい人が多かった。

(4) 「教養について」の項目では、困り事が非常に低いながらも、教養や文化が知的障害者の生活にどのような意義や必要性を感じられるかが問われている。そういった意味では生涯学習のなかで、教養や文化に関するどのような内容を取り入れるか検討をする必要がある。

生活の困り事と学習ニーズの背景にあること

(5) 同項目の困り事と学習ニーズの差異の意味について
同じ質問項目を通して、困り事は低くても学習ニーズは高い、あるいはその反対であることについて。

《本人の内面の動きから推察すると》

「健康について」「お金の使い方」はその差異が大きく出た。「不安は感じるが、すぐには学習しておく必要ない。(健康)」「無駄遣いをしてしまう。商品(服)の選び方が分からない。(お金)」

それぞれの質問に答えるときに本人の内面において、「問題性の想像はできる。」「苦い経験がある。」が、実際に日常的には、困っていないことが回答結果に差異を生じることになった。

生活の困り事と学習ニーズの背景にあること

(6) 生涯学習ニーズの「異性との付き合い」「職場での人間関係」「外出時のマナーや交通機関の利用」の項目は、困り事は低くても、学習ニーズは高くなっている傾向がある。一定の年齢と経験を経た人は、就労場面や生活場面での人間関係において、表向きにはしっかりやっている自分と、内面では不安や心配を感じる内実を持ち合わせている。

そのことが学習ニーズの高さにつながっている。つまり、人（異性も含め）とのより良い関係を保つための対人関係や社会生活スキルを潜在的には学びたいとも思っている。

生活の困り事と学習ニーズの背景にあること

(7) 外出時のマナーや交通機関の利用で困っていることはない結果になっているが、社交的な場でのマナーの獲得や、使ったことのない交通機関の利用への新たな要求が調査終了後の話の中で出された。

また、冠婚葬祭についての知識やマナーの学習、旅行の計画や方法などの学習についても希望や関心をもっている人もいた。

本人の願いや希望を反映した学習ニーズへの転換

(1) 日常生活や社会性に関するスキルや行動についての質問では、生活の中での学習経験や社会経験によって本人なりに自立していると感じていることが、困り事や学習ニーズにつながらないことも反映をしている。

◎しかし次のようなケースもある。

グループホームで生活をしている人の一人暮らしの希望、就労施設から企業就労への希望を実現するための学習ニーズがある。また、家族と暮らしの継続をしたいと思っている人や現在の就労を継続する「今のままでよい」と答える人が多い。

全体の5割の人が安定した現状の就労や生活の継続を望む。つまり「家族との生活を続けること」や「就労を継続すること」の支援も生涯学習ニーズとして考えることができる

余暇活動ニーズの高い項目と社会参加の在り方

余暇活動の質問項目では、3つの分類（スポーツ、文化、楽しみな活動）に分けて、それぞれの活動の中から3つ以内の希望する項目を選択してもらった。それぞれの活動で希望の多かった上位の3つは次の通りである。

（1）スポーツ活動では

- ①「ダンス」②「水泳」③「卓球」

（2）文化活動では

- ①「音楽」②「お菓子・料理」③「読書」

（3）楽しみな活動では

- ①「旅行」②「カラオケ」③は「食事会・飲み会」「コンサート」「スポーツ観戦」が同数。

余暇活動ニーズの高い項目と社会参加の状況

近年の知的障害者の社会参加については、移動支援事業（ガイドヘルパー）を利用し、様々な活動や行事への参加が可能になっている。今回のアンケート調査に協力していただいた人たちの中にも、ガイドヘルパーと一緒にプールに行く人、スポーツ観戦に行く人、図書館に行く人などが多く見られた。また、広島市では障害者福祉センターなどが開催している障害者向けの講座がある。このように講座の参加にも、移動介護支援事業等の外出支援の制度を利用しているケースがある。余暇活動に障害者福祉サービスを活用する社会参加は以前と比べると広がってきている。

以上のように、知的障害者の余暇活動はガイドヘルパーを活用したり、講座等に参加をしたりするなかで、本人の自己選択や自己決定を重視した主体的な活動に向かっている。

生涯学習の場への参加もガイドヘルパーと共に参加することは可能で、障害者福祉サービスの多様な活用を図りながら生涯学習の仕組みを検討することも課題の一つともいえる。

個人の属性や生活実態の違いによる 困り事と学習ニーズ及び余暇活動の分析

(1) 『性別』から観る余暇活動ニーズ

「男性」と「女性」で、困り事ニーズや学習ニーズの違いが顕著な項目は、「異性との付き合い方やマナー」についての項目である。男性が60%以上だが、女性は40%程度だった。

余暇活動で「希望するスポーツ・文化・楽しい活動」での違いは、スポーツでは、

男性はアウトドアスポーツ（サッカー、ソフトボール）への希望が多く、

女性はインドアスポーツ（ダンス、卓球、水泳）への希望が高かった。

「スポーツ」の種目で共通に多かったのは、ボウリングであった。「文化活動」は、ほぼ同様な思考をもって数値も同程度、「楽しい活動」では女性のお菓子作り・料理の活動への希望が非常に高く、音楽は男女とも同数で高い希望が出ていた。

余暇活動（楽しみな活動）を創り出す課題

この課題を項目として取り上げたのは、休日は「家で過ごす事が多い」「一人で遊んだり、家族と過ごしたりすることが多い」という結果がアンケート調査からも出ているからである。つまり、家と職場の往復による中では人間関係が広がらない上に、自分らしい休日の過ごし方や家族や職場の仲間とは異なる人間関係を作る場が不足している現状がある。

休日には楽しみや潤いを感じることができたり、気の許せる仲間と自分らしく過ごせたりできる場や機会をつくることが求められている。そのことは地域で自由な時間を豊かに過ごす生活の広げ方や、友達と楽しい時間の過ごし方の学習をプログラムの内容に位置づけて、本人達が自主的に余暇活動を創り出す方法も身につけることも課題としてあげておきたい。

個人の属性や生活実態の違いによる 困り事と学習ニーズ及び余暇活動の分析

(2) 『年齢層』から観る生涯学習ニーズ

年齢層による困り事の違いについては、困り事の質問18項目の内、20歳代では13項目の質問を、30歳代では14項目の質問に困り事に『有り』と答えており、『無し』と答えた人を上回っていた。

学習ニーズもほぼ同様の結果が出ている。

一方では、40歳代以降の人の調査結果を見ると、11項目が困り事に『無し』、『有り』と答えた人を上回っていた。

学習ニーズでも、12項目に困り事への学習の希望は『無し』となっており、困り事の『無し』より更に増えている。

個人の属性や生活実態の違いによる 困り事と学習ニーズ及び余暇活動の分析

(2) 『年齢層』から観る生涯学習ニーズ

また、調査結果による困り事ニーズへの反応は、20歳代と30歳代では、ほぼ同様である。

一方40歳代以降の人は年齢を重ねてきた経験と知識により、現在の生活の安定・安心度が保たれていることが、困り事感や今以上の学習ニーズを求めていると感じられる。

何故、困り事感や学習ニーズが少ないのか、アンケート調査後にお話を聞いてみると、「今さらねー」とか「普通に困ってないよ」等の声が返ってきた。積極的な思考には受け取れない感じであった。

年齢層による困り事や学習ニーズへの感じ方や意識の違いがあることは、今後のプログラムへの反映にも留意をしておく必要がある。反面、中高年に向けての学習内容（例えば健康や消費者被害など）やプログラムの検討も必要である。

個人の属性や生活実態の違いによる 困り事と学習ニーズ及び余暇活動の分析

(3) 「生活の形態」から観る生涯学習ニーズ

現在の生活の形態では「家庭での生活」「グループホーム・ケアホーム」「一人暮らし」の生活をしている人の困り事と学習ニーズによる比較を行ってみた。

「家庭での生活」の人は、18項目のうち、ほとんどの項目において困り事や学習ニーズの必要性を『有り』が多いと感じている。学習の必要性は『無し』と答える人の数を超えていた。

しかしながら、「グループホーム・ケアホーム」では、10項目について困り事や学習ニーズは『無し』という答えが多く、『有り』と答える人の数値を超えていた。

また、数は少ないが「一人暮らし」の人は殆どの項目に対し、困り事や学習ニーズは『無し』という答えであった。

個人の属性や生活実態の違いによる 困り事と学習ニーズ及び余暇活動の分析

(3) 「生活の形態」から観る生涯学習ニーズ（続き）

本人からの聞き取りを通して、次のようなことが分かった。
「一人暮らし」の人は何とか自分でのやりくりや、周囲の人の力を借りて、生活ができていることが裏付けになっているようである。

また「グループホーム・ケアホーム」の人は世話人・支援者のサポートにより、安定・安心した生活ができており、それぞれ余り不自由を感じていないという答えであった。

「家庭での生活」から「グループホーム・ケアホーム」へ、そして「一人暮らし」に自立生活に近づくにつれ、困り事や学習ニーズへの感じ方は変わってくるのが推察できる。

アンケート対象者数の違いや少なさもあるために参考として留意しておく必要があるが、貴重な資料の一つでもある。

生涯学習で大切にしたいこと（3つのキーワード）

（1）自己決定・自己選択の質を高める

知的障害者にとって能力障害による困難さが、本人の選択や決定を狭める要因としてある。しかし社会人としての経験を生かして学習機会を活かすことで、自分にとってより良い選択、リスク回避、生活の質の向上というプラス効果が期待できる。

（2）自己実現に向けた学びの取組

目標や希望をもち、実現のために学習意欲の高める原動力となる。一方では知的障害者が自己実現するためには他者の支援を受けながら目標や希望を実現できる支援も併せて必要である。社会福祉サービスとの組み合わせにより実現が可能となる。

（3）生活の質を高める社会参加

大学公開講座に参加者が「自分が知らないことを知る喜び」や「これまでの自分と違う成長を感じる」などの感想を述べている。学習を通して本人が感じた豊かさであり、本人の自立観の形成にもプログラム策定上の重要な留意点の一つである。

当事者ニーズを反映したプログラムの枠組み

『当事者ニーズの視点を反映したプログラムの枠組み』

これまでのアンケート調査結果の分析を通して、多様な困り事や学習ニーズの中に、本人たちの意識する動機や目的に着目して次のような視点で枠組みを構成した。

(1) 『キャリアスキルアップ型の学習ニーズ』

「就職活動」「日常生活スキルの獲得」「職場内での人間関係」の学習による「家族との生活から自立生活への移行」「作業所・施設からの企業への就労移行」「安定した継続就労（対人スキルの獲得）」などの目的の実現や課題を克服するためのものである。

当事者ニーズを反映したプログラムの枠組み

(2) 『潜在型の学習ニーズ』

「異性との付き合い」「資格取得」「漢字や計算の学習」の学習ニーズの個々の内心部分の潜在的なニーズに着目した。表面には出にくい内なる思いと言ってもよいデリケートな部分でもある。知的障害者の特性（知的能力）や性に関する問題は、本人の経験や生育歴（学校歴）などとの関係があり、個々の様々な体験にも配慮した丁寧な支援が必要となる。

(3) 『転ばぬ先の杖型の学習ニーズ』

「災害について」「健康」「消費者被害」の学習内容で、「今すぐには必要がないが準備をしておきたい」「先に備えて準備をしたい」といった学習ニーズである。行政や保健・医療機関との連携により効果的な学習と支援につなげる可能性がある。特に40歳以上の中高年の人を対象にするときは大切な内容となる。

当事者ニーズを反映したプログラムの枠組み

(4) 『権利意識型の学習ニーズ』

「福祉・就労制度」「金銭管理」の学習により、「自分に
関係することを知っておきたい。」「自分のことは自分で決
めたい。」とする権利意識の基礎をつくる学習となる。この
先の「福祉サービスの利用」「お金の使い方」「就職活動」
の学習につながっていくものと考えられる。

(5) 『個々の困り事解決型の学習ニーズ』

「人間関係」「福祉サービスの利用」「お金の使い方」「
交通機関の利用」による学習内容である。それぞれのテーマ
の一般的な学習から、実際の個人の困り事や知りたい内容に
より、社会福祉サービスや就労支援などの具体的な個別の支
援策を活用し、解決の方法へとアプローチをしていくことが
求められる。

当事者ニーズを反映したプログラムの枠組み

(6) 『家族・支援者の提案型の学習ニーズ』

「食生活」「外出時のマナー」「文化・教養」の学習である。本人の気がつかないところで他者からみた「知っておいて欲しいこと」「身につけておいた方がよいこと」等の観点で本人にお薦めしたい学習内容である。また「文化・教養」は視野や知識を広げることで新たなレベルの自己決定や自立観を培う土壌となると考えた。

以上の6つの学習ニーズの枠組みは、「生活のなかの困り事や心配事と学習ニーズ」におけるアンケート調査の分析から本人の意識と思考による分類をしたものである。これらはそれぞれが独立をしているのではなく、相互に関連をしながら自己実現の支援につながっていくものと考えられる。

プログラムを実行する上での課題として (作成・活用・運営上の課題)

- (1) アンケート調査から個人の属性による困り事や学習ニーズの違い（特に「性別」「年齢」「生活の形態」など）を考慮して支援の方法や手立てを構築する。
- (2) 本人の発達段階、社会・生活経験、地域、家族等を考慮して支援の方法や手立てについて留意する。
- (3) プログラムの目的や内容によっては、集団の構成（人数、年齢、性別、相性等）に留意した編成を行う。
- (4) プログラムのテーマや参加者の障害特性、理解・関心・興味等に配慮した教材や支援方法・機器を準備をする。
- (5) 学習をしたことを生活や就労の中で、制度や社会資源に結びつけるコーディネーターの存在が必要である。
- (6) 支援者やボランティアが本人たちの意思や思いを引き出す力量を高め、本人たちが企画に参加し、主体的に関わる運営に留意する。

『生涯学習の取組』に至るまでの経過と背景

「NPO法人エス・アイ・エヌによる取組」

2011年10月～2012年3月「生涯学習講座の開催」
～生活に役立つ知識と技術を学ぶ講座～

- (1) 「コンピューターの使い方」
- (2) 「自分の暮らしに生かす福祉制度」
- (3) 「余暇活動を楽しもう」
- (4) 「ビジネスマナー」
- (5) 「食と栄養」
- (6) 「経済生活について」
- (7) 「健康と医療」
- (8) 「自立をしたい」

* 『テキストと支援の手引き』を作成

生涯学習講座の実践から学んだこと

1 学びを生かす相談支援の大切さ

講座による学びを生かして、夢や希望を実現したり、困り事や心配事を共に解決したりするための良き相談者と、その支援を受けることの大切さ。

2 学びへの期待と希望（能動的な学びへ）

学校卒業後の学びへの欲求は、自らの生活や仕事に裏打ちされた社会に出て直面する問題や願いに対する学び。

3 学びから学び合いへ

職場、年齢、地域、経験も違う参加者のグループワークを通して、お互いが学び合い、結論を出していく過程の大切さ。

4 自分の生活を築くために

講座の学びを通して、関心や意識の高まりを感じるが活用できる力を付けるために学び続けることの大切さ。

5 学びの場から潤いの場が変わるとき

講座以外のゆとりが醸し出す、潤いを感じる場とときが必要

生涯学習講座の取組を発展させるために

地域での活動として普遍化することが重要であると考えた。
また、そのための方策を明らかにすることも大切であると考えた。

つまり、地域でも実践可能な学習プログラムを作成し、社会福祉サービスと結びつけた事業として取り組むことが課題である。

《学習プログラムは》

講座で活用したテキストをまとめ、本人、講師、支援者が活用できる「自分らしく豊かに生きる」の生涯学習プログラムのテキストを作成

《発展させていくための課題》

- ① 参加者が期間限定ではなく、継続的に利用できる。
- ② 参加者が参加しやすい活動時間が確保されている。
- ③ 参加者の学習ニーズに応じたプログラムの準備。
- ④ 参加者の学習を生かす社会福祉サービスや社会資源などへのアプローチに発展させる。

生涯学習講座の実践による成果と課題

《成果》

- (1) 講座で活用したテキストをまとめ、本人、講師、支援者が活用できる自分らしく豊かに生きるための「自立を学びあう生涯学習」のテキストを作成ができた。
- (2) 学習プログラムを実施するための専門家や支援者の協力関係や機関との連携を構築するネットワークができた。
- (3) 就労や生活の中で実感する課題だからこそ学びが有効な手立てであると確信した。

《課題》

- (1) 参加者が継続的に利用できるために、地域で活動を普遍化することが重要である。(安定した運営財源や人的体制の確保)参加者が学びやすい活動時間と利用しやすい場所での常設化が必要である。
- (2) 参加者のニーズに応じた多様なプログラムや学びの講座以外にも余暇活動としての楽しい集団的な活動も必要である。
- (3) 講座での学習を生かした生活の困り事やニーズに応じて、相談や援助による解決を図り、福祉サービスにつなげる必要がある。

生涯学習支援の事業化

「NPO法人エス・アイ・エヌ」は、

- 生涯学習の拠点づくりと体系の普及、事業の実践及び研究を理念として掲げ、2015年7月、広島市の地域活動支援センターⅡ型事業を活用した「集いの場あゆみ」を設立した。
- 現在の、就労している知的障害者の生涯学習支援の場として本格的な活動を開始したのは、2016年9月からである。

広島市地域活動支援センターⅡ型事業とは

この広島市の制度は、事業目的を「機能訓練、社会適応訓練等、自立と生きがいを高めるための事業」としており、生涯学習の内容と共通する部分が多くある。利用人数や利用日数は上限設定のみで、開催の曜日には制約がないため生涯学習支援には適していると考えた。

「集いの場のあゆみ」の利用者

- 利用登録者数は30人
- 月の平均延べ利用者数は105人前後
- 男性24人、女性6人
- 一般就労は24人、就労継続支援などの事業所は6人
- 一般就労者の手取り収入は、月10万円以内が15人、10万円以上が9人
- 利用者の年齢構成は、30歳未満は16人、30歳代は8人、40歳代は6人
- 生活について、グループホーム利用者4人、一人暮らし1人
- 利用者の家族・家庭や経済的な状況は、片親家庭、生活保護や年金世帯、保護者に障害があるなど、様々な困難さを複数抱えている利用者も多い。
- 障害の状況は全員が療育手帳の保持者であるが、精神保健福祉手帳の保持者や発達障害の診断を受けている人もいる。

「集いの場あゆみ」の実践

《活動の形態や計画の立て方》

集いの場あゆみは、月～金曜日（以下ウィークデイ利用とする）と日曜日の利用ではプログラムが異なる。

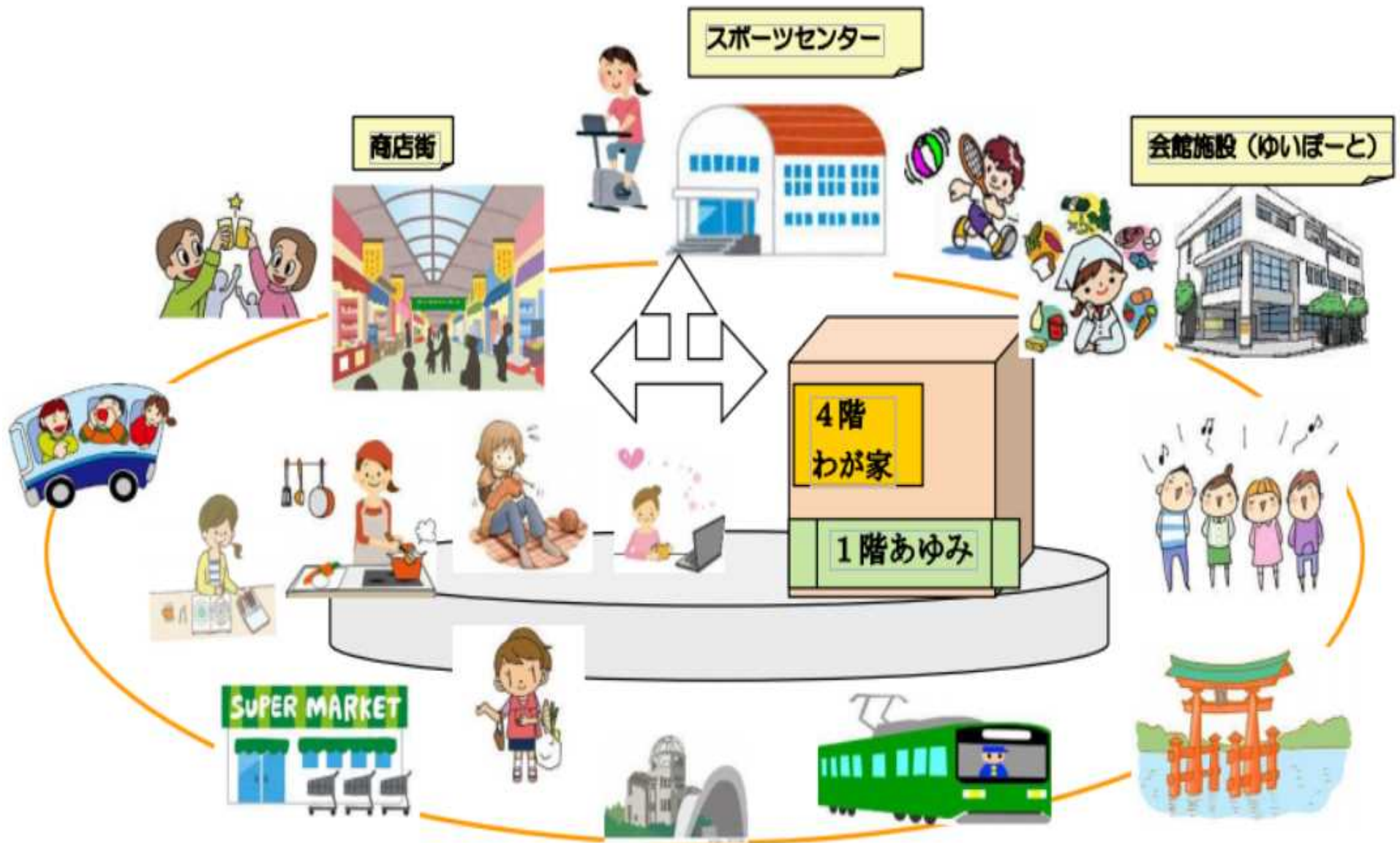
- 日曜日は、講座形式の学習や文化活動、そして行事的な活動が主な内容となる。講座への利用者は15人前後である。
- ウィークデイが休日の利用者は、1日平均で3～5人である。活動内容は利用者の希望やイベント情報などからメニューを考える。

《施設と立地（地域性）》

施設は、ビルの1階のテナントと4階の居室の2カ所を借りており、講座は、1階か近くの公共施設を借りて活動している。ウィークデイは、少人数のために主には4階の2DKの居室で活動を行っている。活動内容によって併用している。

- 広島市の中心部、市役所、平和公園、が徒歩圏内。
- 地域の社会資源 体育館、スポーツ施設、図書館、飲食店、公設市場、スーパーなどが徒歩圏内。

「集いの場あゆみ」 広島市中区住吉町10-2



「集いの場あゆみ」の活動（日曜日の講座や行事）

《日曜日の講座や行事》（2017年1月～12月）

講座は午前中は学びの講座、午後は「グループや個人」の活動
《講座》

○ 午前：専門の講師による学びと文化活動の講座

【学びの講座】

「健康生活」「食生活」「経済生活」「消費者生活」
「コグトレ」（コミュニケーション力と調整力を付ける。等

【文化活動の講座】

「カープの紙芝居」「音楽・ダンスの集い」「音楽鑑賞」
「ミュージカル鑑賞」「初めてのヨガ」など

○ 午後：グループ活動でゲーム、テーブル卓球、インターネット、読書、お茶でトーク、カラオケなどを行う。

《行事》利用者の希望を聞いて計画を立てる活動

【娯楽・レクリエーション】

「マリホ水族館」「森林公園ハイキング」「夏祭り」など

「集いの場あゆみ」の活動（ウィークデイ）

○ 週の活動日課（月～金）

《ウィークデイのプログラム例》（10時～15時）

*メニューは利用者の希望、利用メンバー、イベント情報などを考慮に入れて月間計画を立てる。（例）

曜日	午 前	午 後
月	スポーツ（体育館）〈S〉	カラオケ／お茶トーク
火	調理・わが家食堂〈S〉	天耕録〈S〉／お茶トーク
水	アート制作〈S〉	室内ゲーム／お茶トーク
木	買い物	スイーツ作り
金	外出（美術館or映画鑑賞）	ランチ／お茶トーク

「集いの場あゆみ」の実践（ウィークデイ）

- ウィークデイの利用者は、平日が休日になるスーパーなどに勤める職種の人である。
- 1日平均で3～5人である。顔ぶれはまちまちである。
- その日の利用者は様々であるが、同じ趣味、趣向を持つ者同士のサークル活動〈S〉を行ったり、集団で活動し楽しく過ごす時間があったりである。
- 他にも、利用者の希望やイベント情報などから外出や社会見学などのメニューを考える。
- そして必要に応じて個別に支援者と就労や生活のトーク（相談）を行う。



「集いの場あゆみ」の実践

○ サークル活動（S）

コラムや旅行記などを執筆する「作家クラブ」、季節のアート制作を行う「アートクラブ」、昼食の手作り料理をする「わが家食堂」カラオケを楽しむ「カラオケカフェ」、体育館でバドミントンやミニテニスを楽しむ「スポーツクラブ」である。

○ 文化活動や行事

美術館、マリホ水族館、映画鑑賞、展示会、ランチ、社会的施設（郷土資料館、健康科学館、気象天文館、プラネタリウム、ガラスの里、植物園など）、イベントへの参加（アイサポート活動など） など

○ 個別のトーク

トークは生活から就労までの幅広い困り事や悩み相談である。内容は生活情報や諸手続の対応方法、障害年金、福祉サービスの利用の相談から実務的な支援に至る場合もある。

『支援はワンストップサービスで！』

サークル活動 『アートクラブ』

『アートクラブ』

もの作りを得意とする人たちが、あゆみの事業所の中に、月例ごとに、季節の飾り付けを手作りで制作したり、小物を作ったりするクラブである。

Kさんは、話し言葉や書き言葉も苦手であるが、非常に手先が器用で、聞いたことの情報や見たこと、日常の経験から勘を働かせて物事を進めることができるKさんが中心で制作をする。

今までは、美術館に行っても一人でスタスタと行っていたが、最近は立ち止まっては作品をじっくりと見ていることもある。自分の制作に役立つような包み紙を大切にとっておくなど、物や色、デザインなどに関心が高まっている。友達と一緒に活動する楽しさを覚え、会話も増えてきた。現在アート部の部長である。

他にも『カラオケサークル』や『テニスサークル』などが現在活動中である。

『集いの場あゆみ』の利用者の言葉から

～本人達が伝えてくれる言葉から～

- 学ぶことで、生活のしかたを考えるようになった。
- 学んだ知識を思い出して生活を変えようと思ってみたが、なかなかうまくいかない、今度講師の先生に聞こうと思う。
- 今まで、友達はいなかった、このまま、いないままでも、困ることないし、普通に仕事や生活をしていだろう。今は「あゆみ」がなければ困ると思うようになった。
- 休日を「あゆみ」で過ごすと疲れるから行くな、金がかかるから行くな（本当はかからない）と言われるが、家にいる方が疲れる。「あゆみ」に行くとほっとして心休まる。
- 福祉サービスや支援者を頼ることはなかった。必要がないと思っていた。でも今は、たくさん使っている。分からないこと必要なことを教えてもらった。
- 本当は困っていたかも知れないことに気付き、今を変えることができないと諦めていた自分が、あゆみの仲間と出会い、楽しく活動していることにびっくり。
- 生活に必要なことを学び、自分の思いや希望を出したら実現した。喜びを感じる大切な時間を「あゆみ」が生活と私を変えた。今は、かけがえのない場となった。

生涯学習講座を通してわかったこと（職員の思い）

- 1 生活に根ざした要求に裏打ちされていることが、**学びへの要求**の強さを感じる。
- 2 生活や労働の場で**活用できる支援**の大切さ。
- 3 集団の中で学びあう姿が印象的で、**お互いの経験を学ぶ姿勢**を感じる。
- 4 学校から社会人を通して学んできたこと、身に付けてきたことを活かして自分の**趣味や生きがい**につなげる大切さ。
- 5 本人の話にいていねいに耳を傾け、聞き取り、**内実や隠されたニーズ**をくみ取った**相談活動**の大切さ。
- 6 相談活動から本人が必要としている**サービスや情報、生活上の悩み**まで取組む大切さ。
- 7 仲間の生き方に関心をもち、**集団でしかできない活動や集団だから楽しいと感じる生活の大切さ**を思い始める。

「集いの場あゆみ」の実践の到達点（現段階）

（1）安定した継続的な運営

生涯学習支援を障害者福祉サービス事業で行うことで、安定した運営と継続的な支援が可能になり、利用者を支える拠点として確立することができた。

（2）学びへの要求と主体性

本人の生活に裏打ちされた問題意識が学びを必要とする要求につながっている。また集団の中でお互いの経験を学びあいが見られ、学ぼうとする意欲や主体性となっている。

（3）人生を豊かに生きる支援

サークル活動は、人生の楽しみ方や生きがい作りを大切にしたい取組である。その人の持ち味や自分らしさを引き出すことが大切である。生涯学習が人生を豊かに生きることにつながり、さらに共感できる友達との出会いにもなっている

「集いの場あゆみ」の実践の到達点（現段階）続き

（４）活動の広がりネットワーク

生涯学習講座は専門的な講師陣のネットワークで構築されている。その道のプロの講師が障害に配慮した教材や支援を行う。また、他の余暇活動グループと一緒に活動をして、他団体との連携により人との関係を広げている。そして「集いの場あゆみ」の地域にある男女共同参画推進センター（ゆいぽーと）の交流会や広島市心身障害者福祉センターのスポーツ大会にも参加し、地域の社会資源の活用も行っている。

（５）相談や援助から共に解決して学ぶ

利用者には生活から就労までの幅広い困り事や悩み相談がある。内容は生活情報や諸手続の対応方法、障害年金の手続き、障害者福祉サービス利用の相談から行政手続きに関する実務的な援助に至る場合もある。実際に生活での困り事や不便さを本人と支援者が一緒に解決する経験も学びにつながっている。

「集いの場あゆみ」の実践の到達点（現段階） 続き

（6）生活や就労の場で活用できる学習プログラム

本人が職場や生活場面で活用できる知識やスキルを学べる内容が大切となる。実際に困っている内容に即して、支援を必要としている場所で活用できるような知識やスキルを身に付けることも大切になっている。そのためには、生涯学習は、その都度、就労や生活の中で起きる様々な問題やニーズの把握をして、解決に導く学びのプログラムの作成が必要である。

また、時代の変化への対応からも、情報のアクセスビリティ、生活の安全・安心にも役立つ学習も必要となっている。様々なリスクを回避するためにも最低限必要なことを活用できる学びの重要性が増している。

「集いの場あゆみ」の実践の到達点 (まとめると)

《現段階のまとめ》

生涯学習は、就労や生活の中で起きる様々な問題の解決に導く学びの過程が、自己選択や自己決定の質を高め、仲間との活動に主体的に関わることで、楽しみや喜びを感じる生き方作りに期待ができると感じている。

まとめてみると

- 生涯学習の場は、「人生に役に立つ学び」
- 生涯発達は、「人生を豊かに生きること」
- 個の持ち味や自分らしさが、「集団の中で輝くこと」
- 障害者の学びは「支援と人やネットワークにつながること」
- 生涯学習によって「年相応の生き方と喜びを感じること」

「集いの場あゆみ」の当面の課題

(現段階)

《当面の課題》

- 職員の確保（利用者の声を聞き取る力、持ち味を引き出すセンス、柔軟な対応が可能な人）
- 安定的な運営をするための利用者の若干増。
- 利用者のニーズに応えるための活動内容のさらなる検討。
- 利用者の支援に対する職員の力量アップのための研修機会や事例検討を深める時間の確保。
- 利用者の抱える問題の大きさ（職場での問題、生活上の問題、所得保障の問題など）に対する対応と取組の実践的研究。
- 利用者の就労・生活・学習ニーズに応じた、他の団体やグループ、行政や様々な相談支援機関などとの連携や協力の効果的な進め方。

「集いの場あゆみ」の実践例から

サークル活動 『作家クラブ』 1

エッセイや書評を綴る文芸活動のクラブ。日常のできごとやあゆみでの活動や行事に参加したときを体験を文でまとめて発表をする。

○ Kさんのエッセイ（別紙）

Kさんは、中国新聞の天風録をていねいな字で書写用の原稿用紙に書き写すことを日課にしていた。せっかくなので、天風録を発表をしてもらった。

その後、内容の気に入ったところや、ポイントになっているところを取り出して、天風録の紹介に感想を加えて、参加者に発表をしてもらっている。

また、現在はオリジナルとして、天耕録（自分の名前の「耕」を一字加えた）と称したエッセイの作家活動に取り組んでいる。作家活動を始めるにあたり「松風天耕」というペンネームも命名した。

作家クラブ「天風録」 寸評：松風天耕

小日記 ▶	● 起床時間 時 分
	☾ 就寝時間 時 分
	今日の食事

記入日	29年 7月 22日	今夜の「月の形」を描いてみましょう。 ○○ D○	開始時間 6時58分
	土 曜日 天気		終了時間 時 分
満潮 時 分	干潮 時 分	日出 時 分	日入 時 分
所要時間 分			

「見出し」を考えてみましょう。→

と	を	な	迫	優	▲	、	え	半	く	く	う	基	▲	破	尊	に	と
こ	目	い	る	勝	き	て	る	身	、	踏	た	本	股	リ	破	恥	大
ま	指	が	。40	よ	た	意	を	す	み	。	動	割	、	し	し	大	
で	す	、	も	回	う	ど	志	っ	り	出	中	作	リ	史	て	な	に
進	。そ	ほ	の	名	り	に	く	足	し	て	も	徹	四	最	や	い	ち
む	角	れ	や	記	古	着	、	り	し	。	も	徹	四	最	な	活	な
の	界	で	追	録	屋	い	地	上	が	全	左	底	股	多	な	躍	む
だ	の	も	い	ま	場	た	道	げ	、	体	右	的	と	優	い	た	。
る	、	さ	か	て	所	金	な	た	揺	重	の	に	い	勝	大	。	も
う	赤	ら	け	あ	を	字	鍛	。	る	を	足	反	っ	を	鵬	2	は
か	鬼	な	る	と	制	塔	鍊	赤	が	乗	を	復	た	果	の	年	や
。	し	る	背	一	す	だ	が	鬼	な	せ	重	す	相	た	記	前	そ
は	高	中	回	れ	ろ	加	を	い	て	心	る	樸	し	録	に	の	
	、	み	は	休	ば	う	わ	超	下	歩	低	ろ	の	た	を	は	名

天風録

代	好	赤	く	、	か	、	に	録	の	調	か
し	適	鬼	貪	た	ら	た	、	互	通	子	ら
と	手	も	欲	が	10	。	ま	次	算	の	に
策	と	真	に	、	年	22	た	々	1	高	違
い	し	、	勝	地	。	歳	一	と	0	安	い
た	て	青	ち	位	一	て	っ	塗	4	関	な
二	昭	だ	続	に	人	最	新	リ	8	を	い
人	和	ろ	け	甘	横	高	た	替	勝	下	。
の	期	う	る	ん	綱	位	な	え	に	し	白
横	に	▲	姿	じ	の	に	伝	て	▲	、	鵬
綱	っ	し	を	る	時	昇	説	き	歴	前	関
、	柏	こ	見	こ	代	進	が	た	代	人	が
柏	鵬	名	れ	と	も	し	加	横	の	未	上
戸	時	は	ば	な	あ	て	わ	綱	記	到	り

フリースペース(天風録を貼ったり、印象に残った言葉・表現・感想の記入等にお使いください。)

しこ名は好適手として昭和期を築いた二人の横綱
柏戸と大鵬にちなんで付けられた。巨人 大鵬 玉子焼と
という言葉があるがまさに、この人の事をいったのだろうか。

フリースペース(天風録を貼ったり、印象に残った言葉・表現・感想の記入等にお使いください。)

印象に残ったのは記録です。
横綱 白鵬関が前人未到の39度目の優勝を飾った。
1048勝という大記録、改めてすごいと思った。千代の富士
さんが作、た記録も上回った。強じんなからたてどいまで
あのパワーが出せるのか不思議である。きせの里はケガで本来の
相撲がとれず残念だった。

作家クラブ「天耕録」

作：松風天耕

天耕録 6/6(火)

土曜日の夜、ケイ先生が出演した 神楽劇
スサノオの舞台を見にいった。みなさんも良
くご在位だと思いますが、出雲の国でくした
た姫と天照大神が出会うという物語です。
この中でケイさんは 脚色 演出 振付を
担当されました。もちろん、ステージに登場
して、舞いをひろうされました。今回の舞台
は出雲大社広島分祠 御鎮座50年記念として
長野と広島で公演が行なわれました。
日曜日はコミトレがあり、ストレス、チ、落ち
た落ちた とおなじみのものにくわえ、新し
いゲームで坪井さんがいった一文字で手をた
たくのもやりました。あいかわらずですが、棒渡
しの時、相手とコミュニケーションがうまく
いかず、落としてしまうことが多いのですか
そのうち、うまくいくと思うけど、これから
もあきらめずトライしていきたいと思います。
コミトレの後、県庁であつた環境の日イベン
トでヒロサイルが登場、キレキレのダンスを
ひろうして下さいました。

天耕録 6/16(金)

先週からあゆみの新しい職員さんになった
Mさん、草羽先生とは、支援学校の時一緒
た、たそうです。先週の火曜日に集まったの
は、Yさん、Mさん、Hさん、Uさ
ん、Kさん、僕でした。この日はゆかち
ゃん食堂ということで、冷しゃぶと味噌汁、ご
はんをふるまっていたたきました。たれは、
おろしとごまたれた、たと思います。おろし
がさ、ぱりしていておいしかった。〇〇食堂
というのを月に何度かやってもいいのでは
じまんというか、これなら作れるというもの
を、その日メンバーで持ち寄って、自慢のう
てをひろうするといつた具合にね。楽しく出
来るのでは、ないでしょうか。昼から北海道
の写真をひろうしました。名所を説明しまし
た。すずらん公園やくしろ湿原など、金曜日
のメンバーにはパンフレットを持っていき、
みてもらいました。Mさんとはまたあまり
話が出来ていませんが、これから自分をアピ
ールするためにも、しっかりと話せるようにし
たいと思います。

作家クラブ「天耕録」 作：松風天耕

天耕録 7/28 (金)

水曜日、帰りに出島の屋内プールに寄った。歩行30分やったけど、いい運動になった。て良かった。こうして動き続けることが出来れば、夏の暑さは気にならなくなる。施設によっても違っているだろうが、定休日のちがひもある。ここと東雲は火曜日が休み、吉島は水曜日が休みである。他の施設も調べてみようと思えます。最近ひよっこを見て、思うことがあつた。島谷に振られたみね子、涙を流したシーンは、本当に残念だし悔しさがにじみ出した。僕だったら一発なくて、いたところだろう。あかね荘を引きはらい、姿を消した。今後会うことはないのか？実家の佐賀で父の会社がうまくいってなくて、縁談の話があつた。そうでも彼は、家族と縁を切るといってみね子と一緒にいることを決意した。弱い部分をさらけ出して島谷をいっかつ。別れる原因となつた。乙女リョウの愛子さんがあかね荘にやってきました。すすぶり亭の省吾が近くにいますのうれしいらしい。

実践例 サークル活動 『作家クラブ』 2

○ Jさんの感想文や体験記（別紙）

絵本や短めのエッセイを読んで、その書評や感想を文にして綴る活動と発表をする。

自分で一から文を綴ったり、長文の小説での感想文では続かないだろうと予測し、短文のエッセイや絵本の感想文を綴ることから始めた。

Jさんの好きそうな大人が読んでもし楽しい絵本を推薦し、その感想文の執筆活動に取り組んでいる。

まだ、取り組み始めて日は浅いが、感想文では自分の仕事・生活に重ねて訴える思いが伝わってくる。

体験記の最初は、家族との旅行記であった。時系列で旅行の過程を綴るだけでなく、旅立つまでの準備で心躍る様子や旅先での出来事を感性豊かに綴っている作品として仕上げていた。

「あさ」感想文

『京都 旅行記』

6/9(金)

「あさ」

谷川俊太郎 文
吉村 和敏 写真

どのページも ずとながめていたほど、
自然の色が とても美しい。

今すぐにも、こんな世界に 行ってみたい。

この詩集のタイトルには、こう書いてある。

「よがあけて あさかくるっていうのは、あたりまえのようできて
じつは すごくすてきなこと。」

現実には、よがあけると、仕事にいけないといけな。

仕事を終えて、夜になるのが すごく嫌で、気分が重くなる。

詩集の写真みたいに、特別な朝でなくてもいいから、
日常に「おはよう、あさ」という気持ちと言える
なにかが 変わってきそうだな。

発行 2004. 7. 10 初版発行
2012. 3. 25 第28刷

写真・撮影場所

- フリンズ・エドワード島
- ニュー・ブランズウィック
- ノバ・スコシア
- ケバック

7/10(月)

旅の準備 (京都編)

社会人になってから、一、二年に一回ぐらいのペースで
母と京都や奈良に 行っています。

めたにないことだけど、週末に有休が取れたら、

父も誘うことにしています。

父は、温泉と おいしい魚と ビールがあれば上機嫌に
なります。

我が家では、旅行の行き先や内容は私が企画をすることに
なっています。はじめての所は、ツーリストのチラシをいろいろ
見たり、新聞の広告やJRの駅などでチラシを集めてきます。
日程と内容、予算を比較しながら決めていくのが
私のやりかたです。京都に行くときは、会社のフジトラベルに
お願いをすることが多いです。京都はいきたい所が
たくさんあるので、ついよくばってしまいがちです。

机の上 いっぱいに本を広げていると、時間があつというまに過ぎて
またまた寝不足になっちゃいます。行く場所が決まったら、
次に日程を決めます。非公開の文化財や仏像などが見れる日と
重なった時は、「やった〜!!」とものすごくテンションが上がります。
宿泊先も自分で決めます。母が予算内でやりくりするように、と
毎回、練習にもなっている感じです。

ハイシーズンは予算が高くて、おずかしいけれど、新年と
京都で迎えるのが夢のひとつです。

あと、神社仏閣の拝観料は、手帳の免除がきくので、
障害者手帳は 必ず もって行くことにしています。

新幹線の席は、母のことを考慮して、たとえばトイレの近い
所や、帰りは広島止まりだと人が少ないなどです。

おおまかなこれくらいです。

流石は

サークル活動 『作家クラブ』 3

作家クラブで執筆活動を行うにあたり、次のようなことを話した

単純な感想文や時系列の羅列文から、クオリティを上げるために次のような点を提案している。

- 言葉の意味を調べる。（→現在、インターネット検索などの方法を勉強、取得中）
- 自分の体験と重ねる視点をもつ。（→過去体験の振り返りを通して）
- 自分の体験や知識以外からも情報を調べ、ネタ集めも行う。
- 天風録以外の新聞記事も読んで、社会の動きや地域、スポーツ、文化活動について知る。（→他の新聞記事やニュースにも関心をもって見る）
- 発表後にみんなから感想や意見をもらい、
次回の執筆の参考にする。

NPO 法人 エス・アイ・エヌ (*Support Independence Network*)

～自立に向けて支援をつなげる～

広島市地域活動支援センターII型事業 「集いの場 あゆみ」



始めの「いっぽ」

次への「ステップ」

自分らしい「あゆみ」

【設立に当たって】

学校卒業後のライフステージに移行する中で仕事を中心の生活にならないように、仕事以外の生活の時間のあり方が大切になります。つまり、健康で豊かな生活ができるようなワークライフバランス（仕事と生活の調和）の考え方を持つことが大事です。

「集いの場あゆみ」は、軽度の知的障害や発達障害のある人が、社会の急速な変化に対応していくための情報や知識を身につけていく学びや、楽しみと喜びのもてる活動を通して新たな人間関係の広がりがもてる場として設立しました。

学んだことを生活に活かし、一人一人の希望やニーズに沿った活動や喜びにつながる趣味を共に仲間と楽しむことができる場をめざしています。



利用者は、既存の施設や企業に通っており、休日などをつかって生活に必要な情報や知識、スキルなどを学習する

「生涯学習講座」に参加したり、就労や生活の中で抱える悩みや困り事の相談をしたりもします。また、様々な社会経験や生活経験を積む活動にも参加します。

一人一人が、年齢に応じて自分らしい生き方の実現ができることを願って取り組んでいます。

【ニーズに合わせた多様な支援と場づくり】

1 自立生活に役立つ知識と生活スキルを学ぶ場。（生涯学習講座）

「食生活」「福祉サービスを活用した生活」「健康生活」「消費者生活」「経済生活」などについて講座で学んだり、お互いの情報交換を通して学びあったりします。栄養学の大学教員や看護師、社会福祉士による自立生活に役に立つ学習を興味のある身近な教材を通して分かりやすく講義をします。

2 学んだ知識や生活技術を活用する実践の場。（わが家のごはん作り）

自立生活を体験できる環境（わが家）で友だちと協力して買い物をしたり、食事を作ったりして学んだ知識や生活スキルを生かして楽しみながら実践力を付けます。

3 豊かさや潤いのある生活を楽しむ場（スポーツ・文化活動）

地域のスポーツ施設（近くの体育館）や文化的な施設（美術館や映画館など）を利用して、スポーツや趣味・関心を広げる活動を楽しんでいます。また、近隣の施設の音楽室を利用して定期的に、歌唱やダンスのプロによる「合唱や表現」にも取り組んでいます。

4 自分の得意なことや経験を活かした交流の場（生きがい作りの場）

自分が作ったエッセイや気に入った新聞のコラムを紹介したり、友だちと編み物や季節のアート制作をしたりして、展示をし、自分らしい作品づくりや発表をします。

5 日常生活の行動や活動に必要な調整力を身に付ける場。（コミュトレ）

物を扱ったり、協力して作業をしたりするときに必要な調整力やコミュニケーションの基礎となる力を付けるトレーニングを作業療法士が指導します。（認知作業トレーニング）

6 リフレッシュするために、楽しい活動の計画を立てて実行をする場。（自主的な余暇活動）

集団で楽しめるレクリエーションなどの行事の希望を出して、話し合いで計画を立てて行います。また誕生日ごとに仲間のお祝いもします。

7 お互いの仕事や生活のストレスをためないように発散する場。（たまり場のサロン）

お茶会を通して悩みや愚痴を出し合ったり、ゲーム（UNO、オセロ等）や室内スポーツ（テーブル卓球、ミニボウリング、パットゴルフ等）を楽しんだり、気の合う仲間同士で気分転換を図ります。

8 仕事や生活上の困難な問題について相談を通して共に考える場。（相談活動）

個人のデリケートな、そしてプライベートな生活や仕事の悩みを共に考え、本人に寄り添える相談・支援をします。

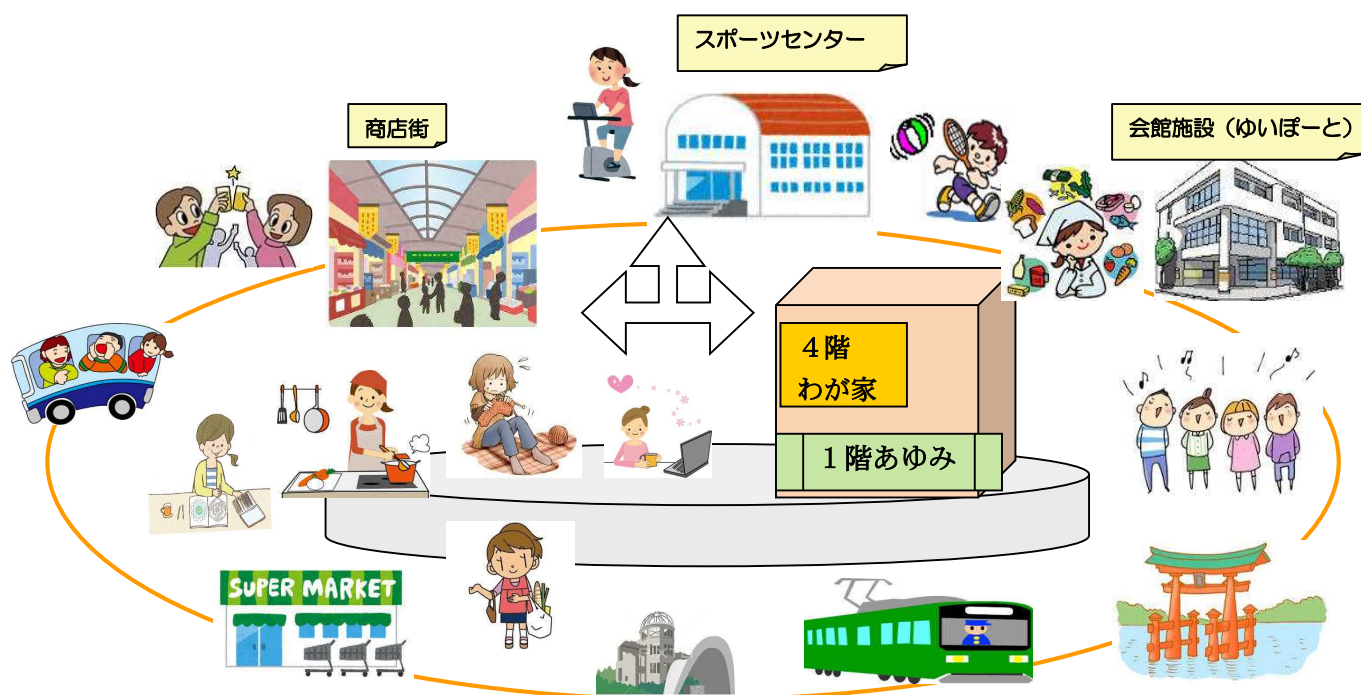
【活動環境と取組】

「集いの場あゆみ」は広島市の中心部に位置したビルの1階と4階を借りています。

1階の「集いの場あゆみ」では、学びの講座（生涯学習講座）を中心に行う（10～15人程度の活動スペース）場で、4階の「集いのわが家」（区別するための通称）は、同じビル内の1室を借りた部屋で、個別や小グループで活動するほっとするわが家のような居場所になっています。

また、近隣周辺には徒歩圏内に商店街、市場、スーパー、役所、スポーツセンター、公共施設があります。目的に応じて、いろいろな施設や場を利用した活動を展開します。

「集いの場あゆみ」からの交通アクセスは、バス、電車で各方面に行くことができます。



「集いの場あゆみ」では、土・日曜日を中心に『学びの講座』に取り組んでいます。

『学びの講座』の活動内容は

「福祉サービスを活用した生活」「健康生活」「食生活」「消費者生活」「経済生活」について必要な知識やスキルについて、専門の講師が分かりやすく、興味を持ちやすい教材を使って、グループワークなどの方法で友達と学びあう進め方で取り組んでいます。

『生活を豊かにする活動』の内容は

「芸能・文化活動」で、音楽・ダンス、大人の紙芝居・・・などを行っています。

「自主的な集団活動」で、楽しい行事やレクリエーションを友達と分担・協力して運営・進行をします。活動は、ボウリング、日帰り旅行、観光、飲み会・・・などを行っています。

他にも、コミュニケーションの基礎となる活動として、作業療法士が認知作業トレーニングのプログラムを行います。ゲーム形式でできるので楽しく参加しています。

「集いのわが家」では平日にお休みの人が、わが家（4階の部屋）に集まり、グループや個別で、いくつかのメニュー（大人のぬり絵、編みぐるみ、自分でつくったエッセイやコラムの作品発表、ゲーム、料理、スイーツ作り、軽スポーツ、パソコン、映画鑑賞、外出）の活動から選んで行います。

【集いの場あゆみの利用手続き】

広島市地域活動支援センターⅡ型の受給者証の申請をしてください。

- 申請場所 住所のある各区の保健福祉課
- 準備物 療育手帳、印鑑
- 申請手順 (役所の窓口での話し方)
 - ・ 窓口で地域活動支援センターⅡ型事業利用の受給者証の申請希望を伝える。
 - ・ 利用したい事業所は NPO 法人 エス・アイ・エヌ 「集いの場あゆみ」
(利用日数は月に10日～15日程度)

* 申請の方法が分からない人は、手続きのお手伝いをします。事業所にお電話ください。

一人一人のかけがえのない人生、

わかち合える仲間とあゆむ人生、

寄り添えてくれる人と共にあゆむ人生、

生涯を通じて支えあえる地域社会づくりをめざしたい。



【場所及び連絡先】

〒730-0813

広島市中区住吉町10-2 正岡ビル102

Tel/Fax 082-567-5584

E-mail: ayumu.sin@grape.plala.or.jp

集いの場あゆみ 所長：草羽 俊之